

笠江

延岡出身

デビュー戦4位



スタートを待つ笠江友和

F1600
東北シリーズ

延岡市出身(延岡西高等学校)のレーシングドライバー、笠江友和(26)が、4月13日に宮城県仙台市のスポーツランドSUGOサーキットで開催したF1600東北シリーズ第一戦で公式戦にデビュー。初戦で4位入賞する活躍を見せた。

笠江は11日にサーキット入りし、練習走行で好タイムをマーク。決勝のポールポジションを狙うべく、予選から積極的な走りを見せた。

予選は15分間走行してのベストラップを競う。1周目でタイヤとブレーキを温めた笠江は、周目から次々と先行車をかわし、好調にタイムを伸ばしたが5周目でスピン。4周目がベストラップで、決勝は9位から

7周目で接触、表彰台あと一歩

デビュー戦で4位入賞した笠江友和(左)



のスタートとなった。

決勝(12周)で笠江は、少し緊張気味にヒットロードからコースインした。2周グリップにマシンを付けフォーメーションランを待つまでの間、「これまで自分にかかわってくださった方々の顔が浮かび、感謝の気持ちで胸がいっぱいになった」という。

立ち上がりから4番手と出る

遅れた笠江は前を走る、3位争いの壁に苦しむ。トップタイムを継続しながら3台ひたたりと並走する。トゥ・ノーズのレースを展開。開眼を突きたい笠江だが先行車の壁でラジエーターに風が当たらず冷却水の温度が上昇、距離を取らざるを得なくなった。

レース終盤に差し掛かった7周目、笠江はリスクを覚悟して勝負に出る。3番手のミラーに白車を映し、プレッシャーをかける。結果、3番手はヘアピン出口でミス。次の直線で3番手のスリップに付けた笠江はコーナーでインを突いた。

しかし、相手の強引な奇りで接触。結局、相手はリタイヤとなったが笠江は接触による減速でマシンへのダメージのため、4位でのチェッカーとなった。

表彰台まであと一歩。笠江は「非常に悔しい結果だが自分に足りない部分も分かり、なぜかこの多いレースだった」と振り返りながら「ようやくレーシングドライバーとしての一歩を踏み出すことができた。自分を支えてくれたと思っている方々に心から感謝したい」とメッセージを寄せている。